

(5)

氏名(生年月日)	三 浦 庸 子
本 籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	甲第236号
学位授与の日付	平成5年10月15日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当(医学研究科専攻, 博士課程修了者)
学位論文題目	脳血管障害患者の血圧および脈拍の日内変動
論文審査委員	(主査) 教授 丸山 勝一 (副査) 教授 高倉 公朋, 橋本 葉子

論文内容の要旨

目的

脳血管障害の発症時期, 病巣部位別に血圧と脈拍の日内変動を検討し, その発現機序について考察を加えた。さらに, 血圧脈拍日内変動から脳血管障害患者の治療上の問題点を検討した。

方法

対象は当科入院の脳血管障害患者161例で, その内訳は脳梗塞患者124例(平均年齢 64.0 ± 12.9 歳), 脳出血患者37例(平均年齢 58.9 ± 8.9 歳)である。器質的脳疾患のない50例(平均年齢 63.5 ± 9.7 歳)を対照とした。各例とも非観血的携帯型血圧計を装着し, 血圧, 脈拍を30分毎に24時間連続記録した。収縮期血圧, 拡張期血圧, 脈拍の24時間平均値, それぞれの変動係数(標準偏差を平均値で除したもの), および1日を午前6時から午後10時までの昼の時間帯, 午後10時から午前6時までの夜の時間帯に分けた場合の, 昼の時間帯の血圧, 脈拍の平均値から, 夜の時間帯のそれぞれの値を差し引いたもの(昼夜差)を算出し, 脳血管障害群と対照群との比較, 脳血管障害群における発症時期別, 病巣部位別に比較検討を行った。なお, 測定時期が発症1週間以内を急性期, 1カ月以内を亜急性期, 1カ月以上経過しているものを慢性期とした。病巣部位は臨床症状ならびにCT, MRIで確認した。病巣部位別の比較は, 脳梗塞群は発症1カ月以内の症例で, 脳出血は全症例で行った。

結果

1. 24時間平均の血圧, 脈拍について
 - 1) 脳梗塞群, 脳出血群ともに発症時は血圧は高値を

示すが, 経時的に低下した。これは降圧薬投与の有無には関連がなかった。

- 2) 病巣部位別では脳梗塞群では脳幹部に病変を持つものの血圧が高く, 脈拍数が多かった。

2. 変動係数, 昼夜差について

- 1) 脳血管障害患者では対照と比較し, 全般的に血圧, 脈拍の変動係数, および昼夜差が対照に比べ有意に低下していた。経時的には回復を示す傾向にあった。

- 2) 病巣部位別にみると, 脳幹部梗塞では変動係数が, 視床および橋に出血のあるものでは変動係数と昼夜差がそれぞれ, より低値を示した。

考察

- 1) 脳血管障害患者では, 血圧, 脈拍の自然変動, および昼夜差の減少を認めた。特に視床, 脳幹部病巣群に異常が顕著であることから, 血圧, 脈拍の生理的な変動, 日内リズムの発現にはこれらの部位が重要な役割を担っていることが推察された。

- 2) 脳血管障害患者急性期にみられる血圧の高値は経過とともに低下を示すことから, 急性期の降圧薬の投与は, 脳血流への影響を考慮し, 慎重に行う必要があると考えられた。

結論

血圧脈拍日内変動の異常は脳血管障害患者に広く認められ, 特に, 視床, 脳幹部障害の関与が強く示唆された。また, 脳血管障害患者の血圧管理の際には, 血圧と脈拍の日内変動が正常とは異なる例が多いことに十分な配慮が必要である。

論文審査の要旨

近年、脳血管障害の発症機序の一つとして血圧の日内変動の関与が注目されるようになったが、その病巣部位との関連について多数例により検討した報告は少ない。

本論文は、脳血管障害患者の多数例について、発症時期、病巣部位別に血圧と脈拍の日内変動を記録検討し、血圧は脳卒中発症時に異常高値を示したが何れも経過とともに漸次低下すること、脳血管障害患者では血圧・脈拍の自然変動、変動係数および昼夜差の有意な減少があつて特に視床、脳幹部病巣群に著明であることを確認、血圧、脈拍の生理的な日内リズムの形成には視床、脳幹部が重要な部位の一つであり、また、脳卒中急性期の血圧管理には日内変動の異常に対する十分な配慮の必要性を指摘したもので、学術上価値ある論文である。

主論文公表誌

脳血管障害患者の血圧および脈拍の日内変動

東京女子医科大学雑誌 第63巻 第6・7号
537-545頁（平成5年7月25日発行）三浦庸子

副論文公表誌

- 1) 慢性期多発脳梗塞患者の血圧日内変動。自律神経 28 (3) : 287-290 (1991) 三浦庸子, 山内照夫, 杉下裕子, 伊藤綾子, 麦島真理, 竹内敏子, 丸山勝一
- 2) 若年女性における朝型—夜型と起立性調節障害 Cornell Medical Index, および24時間血圧との関連。自律神経 29 (5) : 480-490 (1992) 三浦庸子, 山内照夫, 杉下裕子, 竹宮敏子, 丸山勝一
- 3) レーザー血流計と指先容積脈波の比較—安静時および計算負荷, 深吸気負荷時における検討—。東女医大誌 62 (12) : 1608-1614 (1992) 三浦庸子, 山内照夫, 杉下裕子, 竹宮敏子, 丸山勝一